

第1回コンパクトなまちづくり大賞 総合戦略部門 国土交通大臣賞

受賞者：藤枝市（静岡県）

受賞理由：藤枝市では、官民連携による中心市街地への都市機能の誘導や中心市街地の既存ストック高質化と活用による賑わい創出、スマートモビリティへの挑戦、官民連携による身近な移動手段の確保やICTを活用した防災まちづくりなど、都市課題への対応策が多彩であり、計画自体もよく分析をされている。なかでも、市有地を官民連携で活用した活動・交流拠点づくりや道路空間や駅前広場などを活用した賑わいの創出と回遊向上の取組等既存ストックを活用したまちづくりが優れていると評価されました。

1. 地区の概要と課題

(1) 藤枝市の概況

静岡県のほぼ中央に位置し、人口約14万5千人、面積約194km²の都市。江戸時代から東海道の宿場町として栄え、現在でもJR東海道本線、国道1号、東名高速道路、新東名高速道路が東西に走り、富士山静岡空港にも約35分でアクセス可能な交通の要衝となっている。



(2) 都市の課題

- ① 商業集積の低下と民間バス路線の縮小
- ② 製造品出荷額、就業人口が減少傾向
- ③ 人口減少・超高齢化社会の到来、若年層の市外への流出 など

2. 取組概要

【中心市街地活性化の取組（1）】市有地を官民連携で活用した活動・交流拠点づくり

【市有地①の活用】

- 複合商業施設 BiVi 藤枝



【市有地②の活用】

- オーレ藤枝/ホテルオーレ



【市有地③の活用】

- 駅前一丁目8街区第一種市街地再開発事業



【中心市街地活性化の取組（2）】道路空間や駅前広場などの既存ストックを活用した賑わい創出と回遊向上の取り組み

- て～しゃばストリート事業



- 駅周辺イルミネーション事業



- プチマルシェ「love local MARKET」事業



3. 発現した成果

- 中心市街地活性化基本計画の目標指標の達成

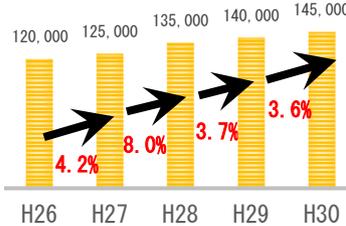
第1期計画

- ・歩行者通行量 約 **1,800人UP**
- ・宿泊客数 約 **8万6千人UP**
- ・公共施設利用者数 約 **29万人UP**

第2期計画

- ・歩行者通行量 約 **1,700人UP**
- ・従業員数 約 **430人UP**
- ・居住人口 約 **940人UP**

- 路線価 [円/m²]が4年連続
県内トップの上昇率



- 空き店舗等への出店が顕著 (H27.1~H28.5)

出店事業所・店舗数： **61軒**（うち空き店舗へ **30軒**）



4. 今後の展開

【藤枝市の政策方針】

① 「ふじえだ型コンパクト+ネットワーク」による独自の都市形成

“拠点集約型”都市構造への転換と、拠点相互の有機的な“つながり”により、持続可能で多彩な魅力を放つまちづくりを推進

② 「ふじえだスマート・コンパクトシティ」の形成

「ふじえだ型コンパクト+ネットワーク」の都市基盤のもと、IoTやAIなどのICTを活用し、暮らしやモビリティ、エネルギー等が全体最適化する、持続可能な次世代型コンパクトシティへの転換を推進

◆官民連携による中心市街地への都市機能の誘導

- 駅前一丁目6街区市街地再開発事業
- 田沼一丁目18地区商業施設整備事業
- ICT×産学官連携による「ビジネス」と「学ぶ場」の創出



◆官民連携による身近な移動手段の確保

- 「地域支え合い出かけっCARサービス」支援事業の実施
- 民間交通事業者と連携した公共交通の運行確保



◆ICTを活用した防災まちづくり導入

- 水害対策にLPWAを活用したセンサー設置



◆スマートモビリティへの挑戦

- 超高齢社会における「次世代モビリティ」活用検証
- 街なかシェアサイクル事業



◆広域交通インフラ活用による地域経済活性化

- 高田工業団地造成事業
- 中心市街地から空港・東京に向かう「広域移動手段」の確保



◆総合公園集客による、まちなかへの波及効果の創出

- 蓮華寺池公園再整備事業

◆中心市街地の既存ストック高質化と活用による賑わい創出

- 駅前広場景観形成事業
- 駅周辺広場・道路空間賑わい創出事業